



となん

【学校教育目標】

- [知] 自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- [徳] 豊かな心を持つ生徒
- [体] 健康でねばり強い生徒



さきやまようしょう

発行者：校長 崎山 用彰

【学校経営目標】

【目指す生徒像】

よりよい未来の創造と自己実現を目指し
学び活動する生徒の育成



☆「QRコード」はデンソーウェブの登録商標です(下地中学校HPへ)

3/19(木) 2校時

令和7年度「修了式」

3/19(木)、本年度の「修了式」の日を迎えました。

教頭先生の開式のことばに続いて、校歌斉唱を行いました。指揮は奥平絢音さん、伴奏は仲里心菜さん、それぞれ2年生が努めました。



次に「1年間を振り返って」各学年代表および生徒会代表の3名が行いました。1年生代表の仲地愛良さんは「学級では家庭学習リレーノートを通じて家庭学習が充実し、学力もアップした。トラブルもあったが何とか過ごせた。個人的には、生徒会や吹奏楽部の活動、各種検定へのチャレンジなど、忙しかったが成長を実感することができた」と述べました。



2年生代表の島尻凜花さんは「『自ら学ぶ姿勢』ノートの取り方等の学び方を工夫し、テスト対策も具体的な目的・目標を立てることで向上できた。

このことを部活動にも応用し、先輩から引き継いだバレー部で、個人やチームの目標を設定して頑張った。最上級生になるので、高校入試という壁を乗り越えるために気を引き締め、最高の1年にしたい」と述べました。

生徒会代表の前泊心和さんは、「運動会、強歩大会、福祉体験、職場体験など、互いの絆を深められた。新しいクラスに不安を感じていたが、すぐに打ち解けて、今では毎日楽しい。生徒会活動も良い経験ばかりで学びがある」と述べました。

次に「修了認定」。1学年 安良城琉杏はじめ35名、2学年 池代球斗はじめ47名、合計82名が各学年の課程を修了したことを認定しました。

続いて「学校長式辞」。用意していた原稿を使用せず、その場で思ったことを伝えました。内容は、「卒業式」全校道徳『どうせ無理』の壁を壊し、よりよい未来の扉を開こう」「来間翔太さんによる『未来講話』」「高校合格発表」など、最近の出来事と関連付けてお話しをしたと思います(原稿なしだったので……)。ここで(読み上げるはずだった)「学校長式辞」を紹介いたします。

令和7年度「修了式『学校長式辞』」

皆さん、おはようございます。先日の卒業式では、37名の卒業生が巣立ちました。厳かな中にも温かみのある、素晴らしい式典となりました。準備から片付けまで、卒業生のために心を込めて動いてくれた在校生、そして職員の皆さん、本当にありがとうございました。

さて、先ほどの修了認定で述べた通り、合計82名の在校生の皆さんの修了を認定いたしました。改めて、おめでとうございます。この一年間、皆さんは「主人公」として、学習や部活動、学校行事に全力で取り組んできました。本年度、下地中学校は文部科学省指定の道徳教育研究校として「自己を見つめ、よりよい自己の生き方について深く考える生徒の育成」に向けて、共に考えてきました。日常の授業や生活の中で、皆さんの心には確かな変化が見られました。授業では、自分の思いや考えを言葉にし、友だちの意見に耳を傾け、多角的に物事を考える姿が多く見られました。これは単なる知識の習得だけでなく、相手の立場を尊重し、共に最適解を見出すとする道徳的実践力そのものです。

ところでみなさんは、「凡事徹底」という言葉を知っていますか。「挨拶や返事を元気よくすること」「時間を守ること」「身なりを整えること」など、生活の中で当たり前のことを当たり前にできることです。それは、自分自身を律し、周囲の人への敬意を形にする「心の構え」です。下中健児としての誇りが、その当たり前の行動に込められていたと思います。

※②に続きます。

3/19(木)2校時
令和7年度「修了式」

※①の続き「令和7年度 修了式『学校長式辞』」です。

一方で、改善すべき点もありました。SNSの使い方や他者への言動について、相手を不快にさせてしまう場面がいくつか見受けられました。画面の向こうにいる相手の「心」を想像できていたでしょうか。「自分がされて嫌なことをしない」という基本に立ち返り、リアルでも現実世界でも自らの行動を客観的に見つめ直す勇気を持ちましょう。失敗を責めるのではなく、その失敗から何を学び、どう自分をアップデートしていくのか。それこそが、私たちの目指す「自己実現」への道です。

これから迎える春休み。皆さんはどのような計画を立てていますか。春休みは、一年間の学びを振り返り、新たな目標を設定する絶好の機会です。学習面で「苦手を克服へと変える挑戦」、生活面で「生活リズムを整え、心身を磨く」、そして何か1つでも「新しい自分を見つけるチャレンジ」など、これら全てが皆さんの「よりよい未来の創造」へとつながっています。

来月からは新年度になります。皆さんが1つ上の学年に進級し、新たな気持ちでスタートが切れるよう、私たち職員一同、全力で応援しています。これからも『『図南鵬翼』の志をもち、輝く未来に羽ばたく下地中学校』を、共に築いていきましょう。以上、校長式辞といたします。



他の離任者は、画像のように笑顔でした。

私が「離任職員紹介」をした後、離任なさる先生方からの「離任のあいさつ」をいただきました。日々の授業や学級でのやりとり、学校行事や生徒会活動、部活動での思い出、今だから話せることなどをお話していました。



続いて、生徒代表による「感謝のことば」です。代表の仲地愛良さんは、涙を流しながらも、お世話になった先生方への感謝の気持ちをしっかりと伝えることができました。



次は花束贈呈です。生徒会役員では人数が足りないので、離任なさる先生と親交の深かった生徒を割り当てて贈呈をしました。

最後は、離任なさる先生方の退場です。生徒、職員みんなで花道を作り、ハイタッチで離任なさる先生方を見送りました……。



3/19(木)午後
令和7年度「離任式」

卒業生も参加し、みだしの「離任式」を体育館で行いました。今回離任なさる先生は、(入場順に)



- ①米須美玖さん
 - ②新里千博先生
 - ③砂川絢音先生
 - ④徳嶺浩明先生
 - ⑤長濱靖先生
 - ⑥仲間梨奈先生
 - ⑦赤嶺桃香先生
- の7名です(⑦赤嶺桃香先生は本人の都合により欠席でした)。

絢音先生は、入場の時から泣いていましたが、そ



☆離任なさる先生方、大変ありがとうございました。